

藤沢今昔・まちなかアートめぐり2023 シンポジウム

「遺し、守り、次世代に伝えたい藤沢の景観」 (教育、建築、アートの視点から)

【事業趣旨】

私たちが2010年から活動を継続し、今年で14回を数える過程で気付かされた重要な視点が、今回のシンポジウムの主題である「景観」でした。藤沢今昔・まちなかアートめぐりは、蔵や町家などの歴史文化遺産を舞台とした現在進行形アートの表現、探究を通じて次世代継承を推進することを活動趣旨とするものですが、同時に藤沢宿の成立や変遷を知る上で、立地、水脈や植生といった自然環境と、産業や交通といった人の営みとの相互の関係性や総合的な構造を、具体的な場所やケースを通じて実感できたことが、貴重な体験となりました。このたびは各分野の専門家の皆様の知見を集め、地域の景観から読み解けること、次世代に継承すべき藤沢の景観について考察を深め、関心を喚起することに繋がることを願うものです。

【概要及びプログラム】

日時：11/18(土)13:30開場/14:00開演/14:05～15:05各パネリストの活動と景観との関わりについて紹介/休憩10分間/15:15～15:40パネルディスカッション/15:40～15:50質疑応答 /15:50閉会挨拶/16:00終了

会場：藤沢市役所本庁舎 会議室3-3

主催：藤沢今昔まちなかアート実行委員会

共催：藤沢市

参加パネリスト：

岩本将宏氏 (藤沢市教育委員会教育長)

佐藤里紗氏 (建築家、NPO法人旧モーガン邸守る会理事)

杉淵武氏 (自治体学会事務局長、※シンポジウムコーディネーター)

伊東直昭 (美術家、藤沢今昔まちなかアート実行委員会代表幹事)